

第20回日本加速器学会総会

2022年10月20日
オンライン開催

式次第

1. 会長報告
2. 広報・ウェブ幹事報告
3. 編集幹事報告
4. 庶務幹事報告
5. 行事幹事報告
6. 会計幹事報告
7. 学会活性化幹事報告



Particle Accelerator Society of Japan

法人化について

現在、加速器学会は任意団体として運営されている。任意団体は各種の法的な規制をうけず自由度は高いものの、最終的には個人の無限責任により運営されているため、組織の安定性という観点からは問題が多い。

前羽島会長の任期から加速器学会の法人化について検討してきたが、今期より「加速器学会の一般社団法人化検討タスクフォース」(以下、タスクフォース)を立ち上げ、本格的にとりくむこととしたい。法人化においては、一般社団法人を念頭にすすめていく。

[次ページに続く](#)

法人化について(2) メリットとデメリット

1. 組織は法人格を得ることで人と同じ権利能力を持つ。
2. 法人格を得ることで社会的信用が高まる。
3. 法人としての契約行為が可能(銀行口座の開設、売買契約、賃貸契約、等)
4. 紛争時に法律にのっとり事案を解決できる。任意団体の場合は個人と個人、あるいは個人と団体の紛争となるため、個別の対応が必要となる。
5. 法律上の義務の発生。それにともない、組織体制の変更が必要となる。また事務費用の上昇も見込まれる。
6. 現在は全会員による総会が最高意思決定機関だが、法人化後は代議員による議決が最高意思決定機関となる。なお、代議員の人数や選出方法などは定款で決定する。

法人化について(3) 今後の方針

1. タスクフォースを組織し、法人化について検討を開始する。

執行部: 栗木(広島大)、三浦(KEK)、紀井(京大)、川瀬(QST)、田村(JAEA)、原田(JAEA)、坂上(東大)

評議員: 羽島(QST)、長谷川(QST)、佐藤潔和(東芝)、帯名(KEK)、鷺尾(早大)

2. 次の役員交代時期の2024年4月の法人化を念頭に、検討および準備を行う。
3. 評議員会における十分な議論、そして総会における合意を前提として法人化を行う。

その他

- 学会活性化幹事について
 - 3月の評議員会での議論をうけて、学会活性化幹事を置くこととし、坂上氏(東大)に本業務を担当していただくことにした。
- 男女共同参画について
 - 加速器学会は男女共同参画学協会連絡会に加盟しているが、リエゾンを引き続き会長が担当する。また男女共同参画は学会の持続可能性向上にも資することから、特別委員会でも扱うこととする。
 - 内閣府男女共同参画局主催のシンポジウム(オンライン)、男女共同参画連絡会シンポジウム(オンライン)に参加した。本問題は、各種法律や規則など政府の取り組みとともに、長時間労働を前提とするなど、個人の意識や職場の慣行とも関連しているため、日本加速器学会としても、ジェンダーギャップの縮小にむけて男女共同参画に引き続き取り組んでいく。

広報ウェブ幹事報告(1/3)



広報ウェブ委員

広報幹事: 田村文彦(原子力機構J-PARC)

宮本篤(東芝エネルギーシステムズ(株))、田中俊成(日大)、
菊澤信宏(原子力機構J-PARC)、佐藤政則(KEK)、古川和朗(KEK)、
紀井俊輝(京大)、永井良治(量研機構)

活動内容

○通常活動(学会ウェブページの運営)

- ・ 公募・国内外会議の情報を随時更新している。コロナ禍による会議等の中止や延期等はまだ続いているため、皆様からも情報をお寄せください。
- ・ 加速器施設／大学等の情報もぜひお寄せください。

○年会参加申込・発表登録システム・年会ホームページの運用

- ・ 第19回年会もオンライン開催となったため、第18回年会同様に年会ホームページは事務局で運用し、参加申込・発表登録システム、(プロシーディングス編集システム)を学会サーバで運用システムの運用を行っている。

活動内容

○年会プロシーディングス編集作業

第19回年会プロシーディングス編集作業は、編集協力者を募集

- ・ 23名より協力の申し出があった
- ・ 編集作業説明会は開催せず、説明資料をメールで送付する
- ・ 編集作業を円滑に進めるための専用ウェブページで運用

○学会誌閲覧ページの運用

学会誌「加速器」18巻から学会ウェブ＋J-STAGEでの公開(併用)に移行
(詳細は編集幹事報告へ)

○オーラルヒストリー

- ・ 第1回分を公開、第2回は準備中(最終確認作業が遅れています)
- ・ アンケートを実施し感想を求めるとともに、編纂作業への協力者を募りたい

○学会Twitterについて

- ・ 2018年7月から日本加速器学会のTwitterアカウントを運用中。投稿は広報幹事と会長で、加速器に関すること、日本の著者による論文の紹介を行っている。
- ・ 学会員向け連絡的な投稿も行っているが、加速器学会フォロワー数を増やすことでより実用的なものになりたい。
- ・ 学会アカウント @pasj.jp のフォローをお願いします。

広報ウェブ幹事報告(3/3)



○今後の計画

- マイページと学会誌・年会ページの認証統合を計画していたが、年会オンライン化と学会誌のJ-STAGEへの移行により、一時休止中。統合範囲については、再度検討中。

編集幹事報告(1/6)



編集委員

編集委員長 川瀬啓悟(QST)

編集委員

赤木智哉(QST), 伊藤正俊(東北大), 今尾浩士(理研),
大塚崇光(宇都宮大), 帯名崇(KEK), 柏木茂(東北大), 金正倫計(JAEA),
設楽哲夫(KEK), 島田美帆(KEK), 末次祐介(KEK), 住友洋介(日本大学),
田村文彦(J-PARC), 出羽英紀(JASRI), 内藤富士雄(KEK),
藤本將輝(名古屋大), 安田浩昌(東芝エネルギーシステムズ),
依田哲彦(大阪大学), 涌井崇志(QST)

編集幹事報告(2/6)



今後の発行予定(毎年、4回発行)

第19巻3号(2022.10.30)	原稿締切7.30	
第19巻4号(2022. 1.30)	原稿締切10.31	特集号
第20巻1号(2023. 4.30)	原稿締切1.31	
第20巻2号(2023. 7.30)	原稿締切4.30	

学会誌での特集企画

*第12巻から、1月末に発行される第4号を特集号として学会誌を編成している

第12巻「広がる加速器の利用」／第13巻「広がる加速器の利用 中性子」／第14巻「国際リニアコライダー(ILC)計画と新しい科学プロジェクトのあり方」／第15巻「本格始動！ SuperKEKB 加速器」／第16巻「加速器と超伝導技術」／第17巻「大強度不安定核ビーム」／第18巻「加速器とハイパワー標的技術」



*2022年3月の日本物理学会年会でシンポジウムを開催
ビーム物理領域, 素粒子実験領域, 実験核物理領域
「大強度ビームと標的技術が拓く素粒子・原子核実験の新展開」

19巻4号での特集テーマ「レーザー加速」

2023年度中に全バックナンバー
を掲載予定

編集幹事報告(4/6)



■ 学会誌記事(学会web)のダウンロード数 (2021.08.01 – 2022.07.31)

- 2018年8月から、会員は最新号から全ての記事が閲覧可能。非会員でも、出版から1年を過ぎた記事と1年未満の編集委員会推薦記事については閲覧を可能。
- J-STAGE登載分含まず。

	DL 数	巻	号	分類	タイトル	主著者
1 (1)	4750	16	4	特集	超伝導入門	荻津透, 古屋貴章
2 (2)	2986	8	4	解説	真空中の放電現象	小林信一
3 (3)	1996	2	2	加速器と 社会	港湾・空港セキュリティとX線検査	萬代新一
4 (5)	970	16	4	特集	実用超伝導材料開発の歴史と将来に向けての動向	淡路智
5 (?)	965	2	2	特集	電子線形加速器の発展I	佐藤勇
6 (?)	800	17	3	話題	加速器による医療用RIの商業生産	伊藤拓
7 (7)	744	15	3	話題	EUVリソグラフィの現状とERLを用いた大強度EUV-FELの展望	河田洋
8 (?)	714	9	3	話題	EPICSを使った制御システム入門	中村達郎
9 (10)	687	13	1	話題	ECR イオン源の開発—理研での結果を中心に	中川孝秀
10(?)	675	2	2	話題	PET用小型サイクロトロンの開発	熊田幸夫

*() は前年の順位

** 昨年1位のダウンロード数は3612件 (2020.08.01 – 2021.07.31)

編集幹事報告(5/6)



■ 学会誌記事(J-STAGE)のダウンロード数 (2021.08.01 – 2022.07.31)

	DL 数	巻	号	分類	タイトル	主著者
1	433	18	3		次世代パワー半導体技術の最新動向	田中保宜
2	236	18	2		電子線形加速器を利用した医療用放射性核種の製造	田所孝広
3	201	18	2		加速器施設廃止のための放射化の測定と評価	松村宏
4	169	18	1		J-PARC Main Ring アップグレード	栗本佳典
5	139	17	3		山形大学医学部東日本重粒子センターの建設	想田光
6	133	18	1		SuperKEKBルミノシティ記録更新	杉本寛
7	132	18	4	特集	J-PARC MLFミュオン生成標的	牧村俊助
8	113	18	2		相対論的フェムト秒パルス電子顕微鏡の開発	楊金峰
9	110	18	4	特集	FRIBにおける液体リチウム荷電ストリッパ	金村卓治
10	106	18	2		コヒーレントエッジ放射が紐とく電子バンチ形状	清紀弘

編集幹事報告(6/6)



■ 発表スライドダウンロード数 (2021.08.01 – 2022.07.31)

	DL数	年会	タイトル	主著者
1	1596	pasj2014	放射化物の管理について	梶本和義(KEK)
2	938	pasj10(2013)	加速器における電子管技術(2)	福田 茂樹(KEK)
3	583	pasj2019	Neural Network Consoleと組込ボードSPRESENSEではじめるDeep Learningの活用	小林 由幸(ソニー)
4	564	pasj10(2013)	加速器における電子管技術(1)	福田 茂樹(KEK)
5	520	pasj2020	吸着式蓄熱材を用いた大型加速器からの排熱利用に関する研究	佐々木 明日香 (東日本機電開発)

■ Proceedingsダウンロード数 (2021.08.01 – 2022.07.31)

	DL数	年会	タイトル	主著者
1	290	pasj2020	電子線形加速器を利用したRa-225/Ac-225製造の基礎検討	尾関 政史(東大)
2	268	pasj2018	QSTにおける先進核融合中性子源(A-FNS)計画	春日井 敦(QST)
3	217	Pasj2020	強化学習による実プラント設備への適用検証	高見 豪(横河電機)
4	195	Pasj2017	インバリエント分析技術を活用した加速器システム等の異常に対する予兆検知・診断	相馬 知也(NEC)
5	183	Pasj9	大面積イオンビームの2次元強度分布測定のためのガフロミックフィルムの校正	石坂 知久(JAEA)
6	180	Pasj2018	ERL-FELを用いた半導体リソグラフィー用高出力EUV光源	中村 典雄(KEK)
7	180	Pasj2020	電子線形加速器を用いたRa-225/Ac-225製造のためのウラン廃棄物由来Ra-226ターゲット原料の基礎分析	三好 邦博(東大)
8	175	Pasj2017	量子メス開発に向けた取り組み	白井 敏之(QST)
9	175	Pasj2020	Present Status of Digital Feedback and Feedforward Project Using Red Pitaya STEMLab	Ersin Cicek(KEK)
10	169	Pasj2021	高専における加速器製作活動~AxeLatoon~	大谷 将士(KEK)

庶務幹事報告(1/4)



学会で協賛・後援・共催の会議等(1/2)

2021年開催の会議等			
会期等	行事名称	許可日	種類
3月9日(火)-11日(木)	2020年度量子ビームサイエンスフェスタ(オンライン開催)	2020年11月17日	協賛
5月13日(木)	理研シンポジウム 「いよいよ見えてきた小型中性子源の現場利用と拓けてきたさらなる 応用—コンクリート反射イメージングから宇宙へ—」(オンライン開催)	2021年4月7日	協賛
7月5日(月)-8月31日(火)	第2回オンライン真空講習会入門講座(オンライン開催)	2021年6月10日	協賛
7月7日(水)—9日(金)	第58回アイソトープ・放射線研究発表会(オンライン開催)	2020年9月28日	後援
7月13日(火)-10月3日(日)	国立科学博物館企画展「加速器」	2021年5月6日	後援
7月15日(木)	第5世代重粒子線がん治療装置(量子メス)シンポジウム -量子科学技術による「がん死ゼロ健康長寿社会」の実現を目指して- (ハイブリッド開催)	2021年6月11日	後援
8月18日(火)-28日(土)	第15回大学生・高専生のための素粒子・原子核スクール・ サマーチャレンジ(オンライン開催)	2021年3月29日	後援
9月6日(月)-8日(水)	日本放射化学会第64回放射化学討論会(オンライン開催)	2021年6月18日	共催
9月6日(月)-10月29日(金)	第2回真空オンライン講習会(オンライン開催)	2021年6月10日	協賛
10月19日(火)-20日(水)	ALC' 21 Online(オンライン開催)	2021年7月16日	協賛
11月3日(水)-5日(金)	2021年日本表面真空学会学術講演会(オンライン開催)	2021年8月4日	協賛
11月16日(火)-17日(水)	第18回放射線プロセスシンポジウム(オンライン開催)	2021年5月27日	協賛
12月1日(水)-3日(金)	日本中性子科学会第21回年会(オンライン開催)	2021年7月19日	協賛
12月1日(水)-3日(金)	2021年度ビーム物理研究会 若手の会(オンライン開催)	2021年10月21日	後援

庶務幹事報告(2/4)



学会で協賛・後援・共催の会議等(2/2)

2022年以降 開催の会議等

会期等	行事名称	許可日	種類
3月7日(月)-9日(水)	2021年度量子ビームサイエンスフェスタ(オンライン開催)	2021年9月29日	協賛
7月6日(水)-8日(金)	第59回アイソトープ・放射線研究発表会 (現地開催またはオンライン開催)	2021年9月30日	後援
7月7(木)-8日(金)	第14回核融合エネルギー連合講演会(オンライン開催)	2022年2月18日	協賛
8月18(木)-26日(金)	第16回大学生のための素粒子・原子核スクール サマーチャレンジ(現地開催)	2022年2月9日	後援
9月10(土)-12日(月)	第65回放射線化学討論会	2022年6月28日	共催
9月11(日)-16日(金)	The 22nd international vacuum congress (現地開催またはハイブリッド開催)	2022年1月19日	協賛
10月16(日)-21日(金)	14th International Symposium on Atomic Level Characterizations for New Materials and Devices '22(現地開催)	2022年5月24日	協賛
10月26(水)-28日(金)	日本中性子科学会第22回年会(現地開催)	2022年5月26日	協賛
11月21(月)-29日(火)	国際加速器スクールISBA22(現地開催)	2022年7月13日	協賛
2023年 3月13(月)-15日(水)	2022年度量子ビームサイエンスフェスタ	2022年10月11日	協賛
2023年6月	International Symposium on Discharge and Electrical Insulation in Vacuum (ISDEIV2023)(現地開催)	2021年9月14日	後援
2023年7月	第60回アイソトープ・放射線研究発表会	2022年9月16日	後援

庶務幹事報告(3/4)



会員数推移

調 査 日	正 会 員 (名誉会員含む)	賛助会員	購読会員	購読会員 (書店)
2015年3月1日	812名 (うち学生47名)	54社	10社	1社
2015年7月20日	862名 (うち学生53名)	56社	10社	1社
2016年3月1日	836名 (うち学生48名)	56社	9社	1社
2016年7月20日	862名 (うち学生53名)	57社	9社	1社
2017年3月1日	837名 (うち学生40名)	56社	8社	1社
2017年7月20日	879名 (うち学生37名)	58社	8社	1社
2018年3月1日	866名 (うち学生36名)	60社	9社	1社
2018年7月20日	896名 (うち学生45名)	60社	9社	1社
2019年3月1日	904名 (うち学生42名)	60社	8社	1社
2019年7月20日	930名 (うち学生54名)	62社	8社	1社
2020年3月1日	920名 (うち学生54名)	63社	9社	1社
2020年7月20日	944名 (うち学生66名)	64社	9社	1社
2021年3月1日	929名 (うち学生60名)	64社	9社	1社
2021年4月15日	914名 (うち学生61名)	65社	9社	1社
2021年7月20日	936名 (うち学生65名)	67社	9社	1社
2022年4月15日	905名 (うち学生64名)	65社	9社	1社
2022年7月20日	928名 (うち学生68名)	68社	9社	1社

庶務幹事報告(4/4)



1. 加速器中性子連携タスクフォース

中性子科学会では、ロードマップを検討中である。日本では、加速器中性子源の具体的な建設計画は今のところできていない。中性子源用小型加速器は重要であるので、そのような加速器開発などについて研究会を計画中である。(岩下、内藤)

2. 外部団体への推薦

日本学術振興会 育志賞(令和4年度募集分)

→ 終了

東レ科学振興会 東レ科学技術賞、東レ科学技術研究助成 (令和4年度募集分)

→ 募集終了・これから選考

ヒロセ賞(令和4年度募集分)

→ 募集中

山田科学振興財団 研究援助(令和4年度募集分)

→ 募集(準備)中 (本学会からの推薦枠は2件)

加速器学会が推薦者となれる、各種 賞・助成金 が複数あります。
皆様、奮ってご応募ください！

行事幹事報告(1/8)



行事委員

原田 寛之	行事幹事／日本原子力研究開発機構 J-PARC
仲井 浩孝	前行事幹事／高エネルギー加速器研究機構
田村 文彦	広報幹事／日本原子力研究開発機構 J-PARC
菊澤 信宏	予稿集・論文集担当／日本原子力研究開発機構 J-PARC
清水 洋孝	会場・企業展示担当／高エネルギー加速器研究機構
黒田 隆之助	プログラム担当／産業技術総合研究所
坂上 和之	プログラム担当／東京大学
佐藤 政則	年会ウェブ担当／高エネルギー加速器研究機構
紀井 俊輝	年会ウェブ担当／京都大学
斎藤 勇一	第18回組織委員長／量子科学技術研究開発機構
倉島 俊	第18回実行委員長／量子科学技術研究開発機構
神谷 富裕	第18回プログラム委員長／群馬大学
池田 伸夫	第19回組織委員長／九州大学
若狹 智嗣	第19回実行委員長／九州大学
諏訪田 剛	第19回プログラム委員長／高エネルギー加速器研究機構
早川 恭史	第20回組織委員長／日本大学
境 武志	第20回実行委員長／日本大学
肥後 寿泰	第20回プログラム委員長／高エネルギー加速器研究機構

行事幹事報告(2/8)



2022年4月の第35回評議員会で現地開催を前提に準備をすすめることになった。感染防止の観点から、会期はポスターセッションでの密を避けべく4日間、見学・懇親会・特別講演は実施しない方針で進めてきた。

第19回 日本加速器学会年会 現地開催概要

- 共催：九州大学加速器・ビーム応用科学センター
- 協賛：北九州市、(公財)北九州観光コンベンション協会
- 会期：2022年 8月 8日(月)～11日(木、祝日)
- 会場：北九州国際会議場
- 見学・特別講演・懇親会：未実施
- 実施体制：

組織委員長：池田 伸夫(九州大学)

プログラム委員長：諏訪田 剛(KEK)

実行委員長：若狭 智嗣(九州大学)

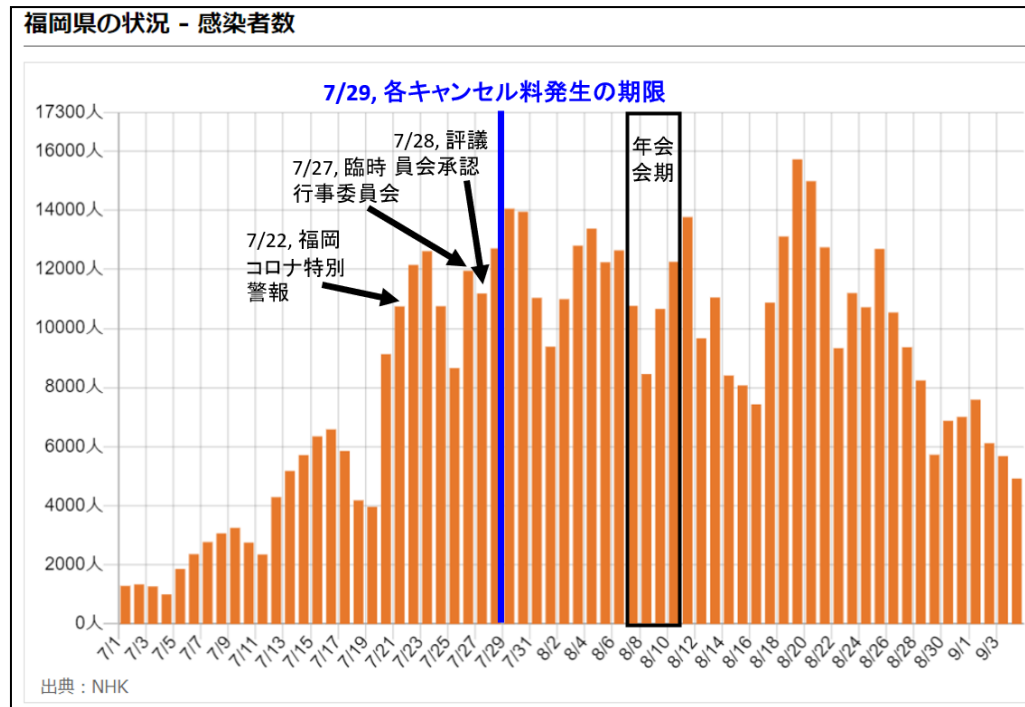
入場時検温(発熱者入場禁止)、各所消毒液配置、参加証事前郵送、受付簡略、会場内人数制限、飲食規制、参加キャンセル時の参加費返金などの対策の講じ実施予定だった。

行事幹事報告(3/8)



4月の評議員会で決定した基準である「緊急事態宣言の発令」や「まん延防止法による行動制限(会議場の使用不可)」は設けられていないが、現地の「医療体制が急激に逼迫」していることから、実行委員会ならびに行事委員会では年会の「現地開催を中止」とさせていただくことの審議依頼を評議員会に提出し承認され、中止を決定した。

- 7/22 福岡県コロナ特別警報発令
- 7/25 キャンセル料発生の期限(7/29)を確認。参加証郵送を停止。
- 7/27 緊急行事委員会を開催。強い制限がかかる縮小案での開催を模索・議論。運営体制、発熱者・発症者の対応を議論。現地では検査・医療体制が逼迫。現地開催中止を評議員会で審議・承認いただくことを決定。
- 7/28 評議員での持ち回り審議。現地開催中止の承認。
- 7/29、会員、賛助会員、参加・展示申込者に周知。



福岡県では7/20頃からPCR検査数が2万件程度で頭打ちであり、検査が受けれない状況であった

行事幹事報告(4/8)



第19回 日本加速器学会年会 オンライン開催概要

- 共催：九州大学加速器・ビーム応用科学センター
- 会期：2022年 10月 18日(火)～21日(金)
- 形式：Zoomウェビナー、Zoomミーティングを利用(第18回年会同様)

企業展示の推移

企業展示@現地開催(7/26時点)			
小間数	46	企業数	44
企業展示@オンライン(9/5時点)			
セミナープラン	1(前回3)	基本プラン	19(前回18)

参加申込者数の推移

参加申込推移			
事前申込(現地) 7/26時点	参加費返還周知 後のキャンセル	現地中止による キャンセル	事前申込(オンライン) 10/3時点(合計)
394	5	35	385

企業展示数の半減、参加費返還周知後のキャンセル数の少なさ、現地中止によるキャンセル数から、現地開催を望む声が多いと感じている

参加者 事前：385 名（一般会員：309 名、一般非会員：33 名
学生会員：28 名、学生非会員：15 名） ※ 10/3 時点

合同セッション : 4件 (4件)

ポスター発表：240件（250件）

施設技術報告ポスター：30件（31件）

年会賞応募募 : 38 件 (32件) 内訳: 口頭: 18件、ポスター: 20件

学会賞受賞講演：2件（奨励賞1、技術貢献賞1）

企画セッション：「加速器の省エネ化：一グリーンILCの活動の経験から－」
「測量から、アライメントを崩す要因探索のための変動・振動測定まで」

展示・広告 企業展示 :基本プラン 19社、セミナープラン 1社
 ショートプレゼン 8社（参加者：約200名） ※ 10/18
 スタンプラリー実施中(今回は44名の方に景品贈呈)

行事幹事報告(6/8)



第20回 日本加速器学会年会 開催概要

- 共催: 日本大学
- 後援:
- 会期: 2023年8月7日(月) 午後 ~ 8月10日(木) 午前 (候補)
(学事日程が決まり次第、決定)
- 会場: 日本大学理工学部船橋キャンパス
- 見学: 日本大学125MeV電子リニアック、学内実験施設を予定
- 特別講演・懇親会: 検討中
- 実施体制:
 - 組織委員長 : 早川 恭史(日本大学)
 - プログラム委員長 : 肥後 寿泰(KEK)
 - 実行委員長 : 境 武志(日本大学)

新型コロナウイルスの影響により規模縮小またはハイブリット開催も検討中

行事幹事報告(7/8)



第21回 日本加速器学会年会 開催概要

- 共催： 山形大学
- 後援：
- 会期： 2024 年 7 月 31 日(水) ～ 2日(金)、3 日(土)は見学
(8月5日(月)～7日(水)は、山形花笠まつり)
- 見学： 山形大学医学部東日本重粒子センター
理学部高感度加速器質量分析センター
- 会場： やまぎん県民ホール、山形テルサで検討中(仮予約済)
- 実施体制：

組織委員長	：	岩井 岳夫(山形大学医学部)
プログラム委員長	：	門叶 冬樹(山形大学理学部)
実行委員長	：	想田 光 (山形大学医学部)

行事幹事報告(8/8)



第22回 日本加速器学会年会 開催概要

- 共催： 東京工業大学、東京都市大学
- 後援：
- 会期： 2025 年 7月下旬～8月下旬の内、3日間か4日間
- 見学： 未定
- 会場： 東京近郊を予定
- 実施体制： 検討中

加速器学会年会の運営について

プロシーディングス提出期限の厳守にご協力を

- 提出期限は年会前日(10月 17日(月)24:00)でした。期限後に提出頂いたプロシーディングスは受け付けません。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます

会計幹事報告(1/8)

2021年度日本加速器学会決算報告

(2021年4月1日～2022年3月31日)

収入の部

(単位:円)

科 目	細 目	前期実績	当期予算案	当期実績
会費収入		8,766,000	11,264,600	11,172,600
正会員	当年度分(118件+前年度前受金708件)×8,000円、過年度分24件×6,000円	5,214,000	6,824,000	6,752,000
学生会員	当年度分(16件+前年度前受金37件)×3,000円、過年度分2件×2,000円	104,000	183,000	163,000
賛助会員	当年度分(70口+前年度前受金275口)×12,000円	3,350,000	4,140,000	4,140,000
購読会員	当年度分9口×12,000円	90,000	108,000	108,000
書店経由購読会員	当年度分1口×9,600円	8,000	9,600	9,600
事業収入		6,322,507	5,944,700	6,813,979
会誌販売収入	学会誌売上	2,200	2,200	0
会誌別刷・カラー印刷収入	「加速器」Vol.18,No.1～No.4	463,707	200,000	643,379
会誌広告収入	「加速器」Vol.18,No.1～No.4	1,139,600	1,100,000	1,139,600
学術的会合収入	第18回年会	4,717,000	4,642,500	5,031,000
雑収入		74	0	84
受取利息		74	0	84
還付金		0	0	0
その他		0	0	0
収入合計		15,088,581	17,209,300	17,986,663

会費の値上げにより会費収入が240万円増加

会員種別	現行(年額)	改定後(年額)
正会員	6,000円	8,000円
名誉会員	免除	免除
学生会員	2,000円	3,000円
賛助会員	一口 10,000円	一口 12,000円
購読会員	10,000円	12,000円

会計幹事報告(2/8)

支出の部

科 目	細 目	前期実績	当期予算案	当期実績
学会誌出版費		4,570,596	4,650,000	5,121,866
会誌発行費	印刷・原稿管理・校正・発送・編集	4,525,776	4,600,000	4,820,431
別刷印刷費	別刷り印刷・発送	44,820	50,000	55,860
J-Stage登載費	「加速器」Vol.18,No.1～No.4 J-Stage登載費	0	0	245,575
運営費		4,474,780	5,203,810	4,067,904
学術的会合支出	第18回年会開催費	4,418,820	4,744,810	4,032,036
学会賞費	賞状用紙等	13,500	14,000	16,200
会場費	Webexサブスクリプション	42,460	45,000	19,668
旅費	各委員会旅費	0	400,000	0
事務業務費		3,726,554	4,077,000	4,077,003
基本業務委託費	国際文献社基本料金	3,061,329	3,280,000	3,295,441
	法人税・消費税申告	187,000	187,000	187,000
基本以外	(予算案では以下の内訳を一括して評価)	478,225	500,000	504,991
	以下、内訳			
通信費	サーバー使用料等	63,261		62,964
	封筒印刷費	110,000		110,000
備品費		0		0
事務用品費		0		0
消耗品費		0		0
運送費	宅配便等	104,827		90,691
事務局旅費	会議・打ち合わせ出席時の旅費実費	0		0
支払手数料	ドメイン使用料	9,130		9,130
振込手数料	銀行振込、年会会期以外のカード決済、受取人払時の手数料	169,007		166,206
他団体発行賞への学会推薦対応		22,000		66,000
選挙費	会長・評議員選挙	0	110,000	89,571
その他		130,000	853,500	599,100
年会特別講演撮影		0	100,000	0
オーラルヒストリー編集		0	100,000	0
J-Stage搭載費	「加速器」Vol.15,No.2～Vol.17,No.4 J-Stage登載費	0	423,500	423,500
英文校閲費	Accelerator and Medical Physics誌	0	100,000	0
男女共同参画学協会連絡会	第19期分担金、聴講参加費	0	0	13,000
租税公課	法人税、消費税	130,000	130,000	162,600
支出合計		12,901,930	14,784,310	13,865,873

2020年度分
法人税 70,000円
消費税 92,600円
計162,600円

会計幹事報告(3/8)



収支差額・剰余金

科 目	細 目	前期実績	当期予算案	当期実績
収支差額		2,186,651	2,424,990	4,120,790
前期繰越剰余金		6,052,841	8,239,492	8,239,492
次期繰越剰余金		8,239,492	10,664,482	12,360,282

2021年度貸借対照表

2022年3月31日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
現金および預金		前受金	
三菱UFJ銀行残高	10,486,956	正会員会費(2022年度708件×8000円、1件×4000円) (2023年度2件×2000円)	5,672,000
みずほ銀行(年会用口座)残高	5,371,803	学生会員会費(2022年度30件×3000円) (2023年度1件×2000円)	92,000
郵便振替貯金残高	7,046,122	賛助会員会費(280口×12000円)	3,360,000
手持ち現金残高	0	書店購読会員会費(1口×9600円)	9,600
未収金	110,000	未払金	
		国際文献社 1-3月分委託費	1,095,639
		国際文献社 学会誌「加速器」第18巻4号 別刷発送費	1,860
		国際文献社 学会誌「加速器」第15巻2号～第17巻4号 J-Stage登載費	423,500
		前期繰越剰余金	8,239,492
		当期収支差額	4,120,790
合計	23,014,881	合計	23,014,881

会計幹事報告(4/8)

2021年度資産負債明細

2022年3月31日現在

資 産 の 部			
科 目	金 額	細 目	金 額
現金および預金	23,014,881	三菱UFJ銀行残高	10,486,956
		みずほ銀行(年会用口座)残高	5,371,803
		郵便振替貯金残高	7,046,122
		手持ち現金残高	0
		未収金 学会誌「加速器」第18巻4号 カラー印刷代	110,000
合計	23,014,881	合計	23,014,881

負 債 の 部			
科 目	金 額	細 目	金 額
会費前受金(3月31日現在入金分)	9,133,600	正会員会費(2022年度708件×8000円、1件×4000円) (2023年度2件×2000円)	5,672,000
		学生会員会費(2022年度30件×3000円) (2023年度1件×2000円)	92,000
		賛助会員会費(280口×12000円)	3,360,000
		書店購読会員会費(1口×9600円)	9,600
		国際文献社 1-3月分委託費	1,095,639
未払金(3月31日現在)	1,520,999	国際文献社 学会誌「加速器」第18巻4号 別刷発送費	1,860
		国際文献社 学会誌「加速器」第15巻2号～第17巻4号 J-Stage登載費	423,500
合計	10,654,599	合計	10,654,599

剰 余 金 の 部			
科 目	金 額	細 目	金 額
前期繰越剰余金			8,239,492
当期収支差額			4,120,790
合計			12,360,282

会計幹事報告(5/8)



剰余金処分計算書

前期繰越剰余金	8,239,492
当期収支差額	4,120,790
次期繰越剰余金	12,360,282

2021年度決算監査結果

監査報告書

日本加速器学会の2021年4月1日～2022年3月31日の決算書について、監査の結果、正確かつ適正であることを認めます。

2022年5月12日

日本加速器学会

監事 肥後壽泰 (印)

監査報告書

日本加速器学会の2021年4月1日～2022年3月31日の決算書について、監査の結果、正確かつ適正であることを認めます。

2022年5月12日

日本加速器学会

監事 古坂道弘 (印)

会計幹事報告(6/8)

2022年度日本加速器学会予算案

(2022年4月1日～2023年3月31日)

収入の部

(単位:円)

科 目	細 目	2022年度予算(A)	2021年度実績(B)	増減高(A-B)
会費収入		11,177,600	11,172,600	5,000
正会員	841名 × 8,000円	6,728,000	6,752,000	-24,000
学生会員	64名 × 3,000円	192,000	163,000	29,000
賛助会員	345口(65社) × 12,000円	4,140,000	4,140,000	0
購読会員	9口 × 12,000円	108,000	108,000	0
書店経由購読会員	1口 × 9,600円	9,600	9,600	0
事業収入		14,786,600	6,813,979	7,972,621
会誌販売収入	学会誌売上	0	0	0
会誌別刷収入	「加速器」Vol.19,No.1～No.4	500,000	643,379	-143,379
会誌広告収入	「加速器」Vol.19,No.1～No.4	1,139,600	1,139,600	0
学術的会合収入	第19回年会(現地開催)	13,147,000	5,031,000	8,116,000
雑収入		0	84	-84
受取利息		0	84	-84
その他		0	0	0
その他		0	0	0
その他		0	0	0
収入合計		25,964,200	17,986,663	7,977,537

会計幹事報告(7/8)

支出の部

科 目	細 目	2022年度予算(A)	2021年度実績(B)	増減高(A-B)
学会誌出版費		5,195,575	5,121,866	73,709
会誌発行費	印刷・原稿管理・校正・発送	4,900,000	4,820,431	79,569
別刷印刷費	別刷り印刷・発送	50,000	55,860	-5,860
J-Stage掲載費		245,575	245,575	0
運営費		12,762,200	4,067,904	8,694,296
学術的会合支出	第19回年会開催費(現地開催)	12,316,000	4,032,036	8,283,964
学会賞費	賞状用紙等	16,200	16,200	0
会場費	会議室使用料	30,000	19,668	10,332
旅費	各委員会旅費	400,000	0	400,000
事務業務費		4,087,000	4,077,003	9,997
基本業務委託費	国際文献社基本料金	3,400,000	3,295,441	104,559
基本以外	法人税・消費税申告(税理士、国際文献社) (予算案では以下の内訳を一括して評価)	187,000	187,000	0
通信費	サーバー使用料等	500,000	504,991	-4,991
備品費	封筒印刷費		62,964	
事務用品費			110,000	
消耗品費			0	
運送費	コピー用紙、役員名刺代など		0	
事務局旅費	宅配便等		90,691	
支払手数料	会議・打ち合わせ出席時の旅費実費		0	
振込手数料	ドメイン使用料		9,130	
他団体発行賞への学会推薦対応	銀行振込、年会会期以外のカード決済、受取人払時の手数料		166,206	
選挙費	会長・評議員選挙	0	89,571	-89,571
その他		2,110,000	599,100	1,510,900
年会特別講演撮影	撮影、編集、公開	100,000	0	100,000
オーラルヒストリー編集	聞き取り書き起こし、出張費	100,000	0	100,000
J-STAGE掲載費	過去の学会誌の掲載費	1,000,000	423,500	576,500
英文校閲	Accelerator and Medical Physics誌	100,000	0	100,000
男女共同参画学協会連絡会		10,000	13,000	-3,000
租税	法人税、消費税(2021年度分)	200,000	162,600	37,400
若手支援		600,000	0	600,000
支出合計		24,154,775	13,865,873	10,288,902

未搭載分
Vol.1-1～15-1
に対して
254万円程度

新設

会計幹事報告(8/8)



収支差額・剰余金

科 目	細 目	2022年度予算(A)	2021年度実績(B)	増減高(A-B)
収支差額		1,809,425	4,120,790	-2,311,365
前期繰越剰余金		12,360,282	8,239,492	4,120,790
次期繰越剰余金		14,169,707	12,360,282	1,809,425

学会活性化特別委員会

背景

日本の人口減少は著しく、さらに若手の割合が減る、超高齢化社会が迫っています。加速器学会は、最先端科学を支え、広く産業・医療にも利用されている技術であるが、サステナブルな学会運営には若手人材の確保とともに、それを可能にする育成・交流が必須であると考えています。他学会においても同様の活動は見られ、若手の確保などの動きが顕在化しています。

加速器学会を持続可能な団体として維持していくためには、新しい会員の入会、特に若手の研究者や学生の参加が重要であることは明らかで、次世代を担う若手の人材育成として、学会内での若手の交流を行い、つながりを強くするだけでなく、広く関連分野との交流を促進し、加速器学会がより求心力を持つ団体として発展できるよう、若手人材育成を最初の施策としつつ、学会の活性化に関する企画・立案・実行をするための委員会として、暫定的な特別委員会を組織しました。

本特別委員会は第35回評議員会で審議・お認めいただき、特別委員会を組織し、若手活動支援施策から活動を開始しました。

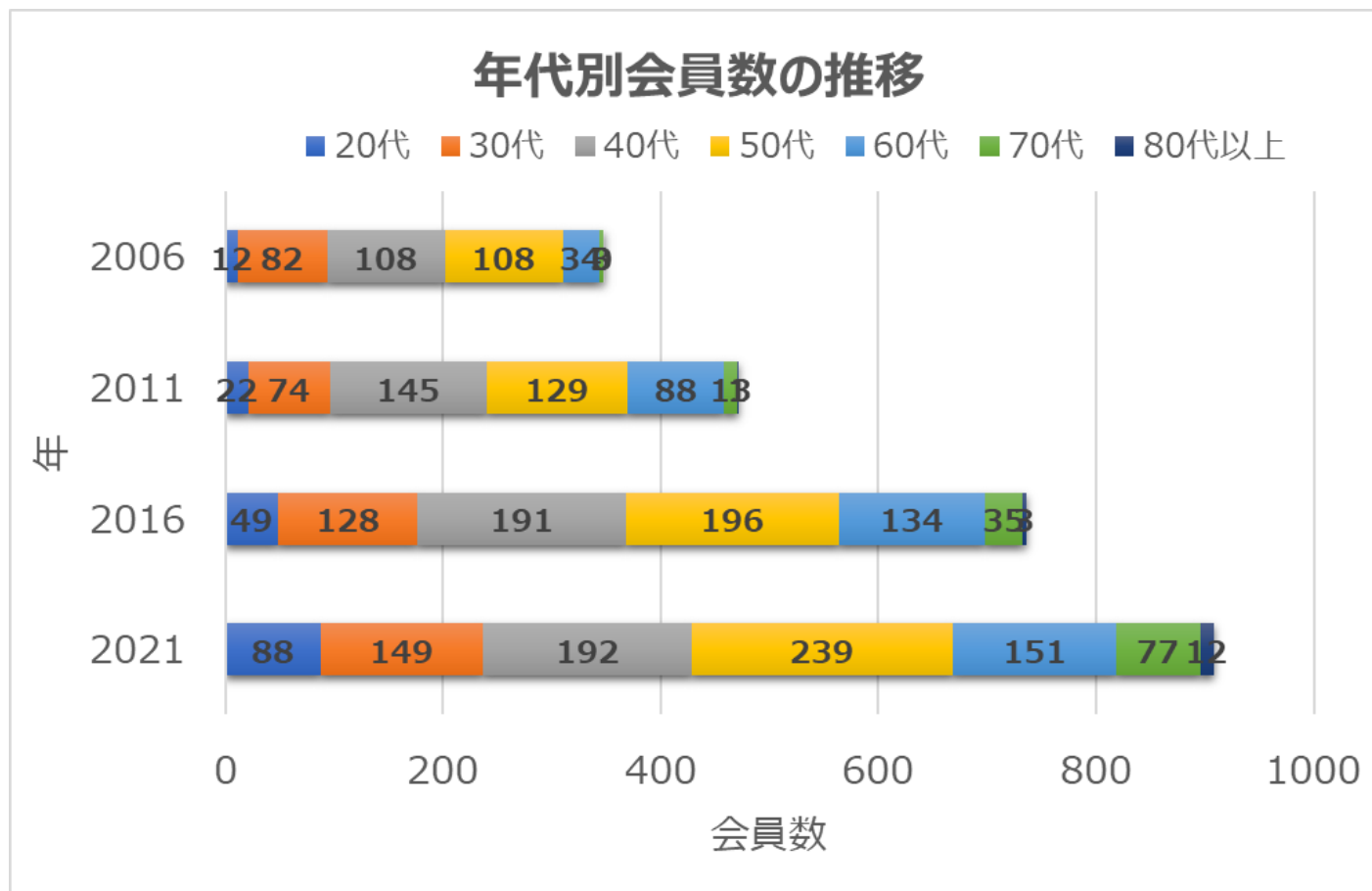
本総会では特別委員会の立ち上げ報告と初めの施策としての若手活動支援に関して報告します。

学会活性化幹事報告(2/5)



学会活性化特別委員会

参考資料:年代別会員数の推移



学会活性化特別委員会

委員長 坂上 和之(東京大学)

委員

全 炳俊 (京都大学)

大谷 将士 (高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設(J-PARC))

想田 光 (山形大学)

岡安 雄一 (高エネルギー加速器研究機構加速器研究施設)

鈴木 研人 (高エネルギー加速器研究機構共通基盤研究施設)

オブザーバー: 幹事会メンバー

※45歳未満の評議員(2名)とプログラム委員より各カテゴリーからご推薦をいただき、専門とするカテゴリーの偏りなども考慮して決定いたしました。

若手活動支援募集要項

総会(年会)終了後に、メールやHPでアナウンスさせていただき、募集を開始いたします。
多数のご応募をお待ちしております。

日本加速器学会 若手活動支援 募集要項

若手活動支援 公募の趣旨

日本加速器学会は加速器科学、加速器技術およびこれ等に密接に関連する学問の発展をもって社会に貢献することを目的として設立されました。近年では、身近な産業や医療などにも広く利用され、必要不可欠な基盤技術でありその用途も広がっています。加速器学会を持続可能な団体として維持・発展することは、これら必須な技術基盤を維持することにもつながり、学会内のみならず社会生活においても重要な意味があります。

このたび加速器学会では学会活性化特別委員会を設置し、持続可能な学会を目指し、次世代の加速器科学を担う若手が中心となって行う活動を支援するための枠組みの設置から取り組みを開始しました。学会内での若手の交流やつながりを強くするだけでなく、広く関連分野との交流を促進し、加速器学会がより求心力を持つ団体として発展できるような提案を広く募集します。

若手活動支援募集要項

募集条件:

- ・加速器科学に関するものであれば分野は問わない
- ・基盤技術という性格から、他分野との連携や国際的な連携に資する提案は積極的に支援する
- ・代表申請者は学会員であること
- ・代表申請者と共同申請者は全て異なる研究室・研究グループに所属していること
- ・代表申請者および1名以上の共同申請者の年齢が45歳未満であること
- ・採択された活動は加速器学会誌への開催報告を寄稿すること

※提案から補助には期間が必要であるため、開催の最低1か月前 の提案であること

※予算には限りがあるため、20万円/件を想定している

提案を精査の上、学会活性化特別委員会が採否・補助額を決定する(他予算との共催も可)

申請例(学会活性化特別委員会で挙げたものであり、これに縛られるものではない)

- ・若手主体の研究会開催
- ・若手合宿の企画(講師旅費等の補助含む)
- ・対面研究会開催時のコロナ対応支援
- ・加速器学会の(若手的な)アウトリーチ活動(SNSなど)